

# ここに注目 令和元年度決算審査



小高 時男  
予算・決算常任委員長

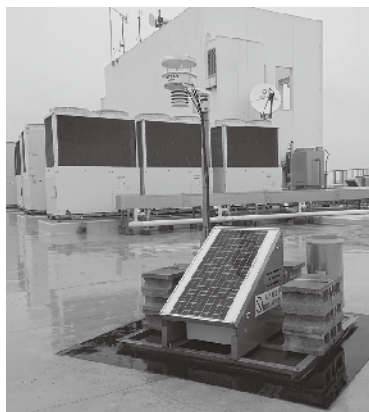
第3回定例会では、予算・決算常任委員会において昨年度の歳入・歳出や実施された事業の成果などの詳細を明らかにし、来年度の取り組みに生かせるよう審査をしました。

## いのちを守る避難所の開設

令和元年10月12日、台風第19号は75件の床上浸水被害が発生しました。市は避難所6カ所を開設、一時期700名を超える方が避難しました。

〇 昨年の台風では災害救助法が適用されたが、住宅応急修理制度の利用実績は。  
〇 被災宅に直接赴き、制度の話と利用状況について確認したところ、最終的には33件の利用となった。

〇 避難所運営の経験から新たに整備したものは。  
〇 自動式のラップ式のトイレ、ワンタッチ式のパーティションのほか、体育館の床は冷たかったという声を踏まえて段ボールベッド、エアマットを1千枚備蓄した。



〇 避難行動要支援者事業の現状は。  
〇 防災訓練では、自主防災組織が主となって要支援者名簿を活用した安否確認を実施した。  
〇 気象計の設置場所とその効果、活用は。  
〇 高密度気象観測システムを市役所本庁舎の屋上に設置し、アプリで雨量の状況をリアルタイムで確認できる。

## 外国籍市民も住みやすいまちづくり

外国籍市民の日常生活をサポートするため市民生活相談業務や生活ガイドブックを作成しました。

〇 外国籍市民生活相談業務の実績は。  
〇 昨年度については、217件の相談があった。相談の傾向は、教育言語、生活との報告を委託先から受けている。

今年度は、新型コロナウイルス感染症関係の相談が増えている傾向である。  
〇 外国語版生活ガイドブックの内容、印刷部数配布場所は。  
〇 各種届け出の方法やごみの出し方、税の説明、各種検診、教育に関すること、公共施設や医療機関などの情報を掲載している。

配布部数は、英語、中国語を各80部、ポルトガル語、韓国語、タガログ語を各30部印刷した。昨年度からは、ベトナム語



外国語版生活ガイドブック

を追加し30部印刷している。配布先は、転入者用として市民課窓口、大井総合支所、出張所等である。ほかに閲覧用として子育て支援課、福祉課、保健センター、ふじみの国際交流センターなどに置いている。

## 学び育ちサポーターの配置

通常学級のうち、6.5%程度の児童・生徒は個別の支援が必要とされます。より極め細やかに対応するため、新たに学び育ちサポーターを配置しました。

〇 これまでの生徒指導支援員といじめ等対応支援員を統合し、学び育ちサポーターに一本化した。各学校の配置は。  
〇 市内全体で38人配置した。基本的には各学校に2人ずつになる。  
〇 学級数に関わらず同じ人数か。  
〇 学び育ちサポーターだけでなく、学級数が多い学校には別の支援員等も配置している。

〇 不用額が賃金の1割近く1378万3千円出ている。業務に支障はなかったか。  
〇 4月、5月当初は欠員が生じ不用額の要因と



なったが、6月以降は定数を配置することができた。  
〇 不登校の児童・生徒数が、このところ100人を超えているが、ここ数年の教育相談での傾向は。  
〇 不登校等は年々微増である。教育相談では、発達障がいや家庭環境の件数が増えている。

## アウトリーチで支援の手を

昨年度から始まった地域力強化推進事業では、ひきこもりや孤立する高齢者への支援など地域で把握した福祉的課題を見つけ出し、支援していく取り組みが行われました。また行政や介護事業所、NPOなど、多機関の協働で包括的な支援につなげる環境も整えられました。

〇 地域力強化推進事業の実績は。  
〇 初年度なので、まずは2つの社会福祉協議会支部でアンケートを行った。アンケートの結果報告の形で行った市民座談会やボランティア座談会を開催し、地域スタッフ自身の企画や情報提供により、地域で開催されているいきいき・ふれあいサロンの参加者が50%増加した。

また、一歩が踏み出せないという人に対してボランティア活動のマッチングを行った。  
〇 多機関の協働による包括支援体制とも関係す



るが、その成果は。  
〇 相談できる場として市内の複数の社会福祉法人の協働による住民に身近な相談窓口を昨年10月に開設した。  
〇 地域住民の困りごとの初期相談に応じ、専門窓口や総合相談窓口、ふくし総合相談センター「よりそい」「にじいろ」等につなぎ、適切に支援が受けられるようにした。

## ふるさと納税人気の返礼品

返礼品が食品類やゲームソフトなど幅広くなり、寄附額が年々増加しています。その反面、税制面では個人市民税における控除額も増えています。

〇 ふるさと納税寄附金の件数は。  
〇 388件で金額では607万9千円である。  
〇 寄附額が増えているが、返礼品を工夫しているのか。  
〇 例年プリンやキムチ等の食品類に多く申し込みがある。最近、市内在住のゲームクリエイターが作成したゲームソフト「キラキラストーナイト」の申し込みが多く、平成30年度は200件近く、令和元年度でも54件の申し込みがあった。

〇 返礼品や郵送料、業務委託料を差し引くと、実質の寄附額は。  
〇 寄附額が607万9千円、経費が約312万円、差し引き295万6千円である。経費負担割合になると、51.4%となる。  
〇 市税で、ふるさと納税の控除対象者数とその影響額は。  
〇 個人市民税の控除は、対象者が3950人、金額では約1億7500万円となっている。



## 各種がん検診の取り組み

昨年度から乳がんの個別検診や内視鏡による胃がん検診が始まりました。乳がん検診の受診率は18.3%、胃がん検診はバリウムが1.1%で内視鏡が5.6%、5大がん（肺・大腸・子宮・乳・胃）の平均受診率は22.7%でした。

〇 乳がん検診の個別検診を受けた人数は。  
〇 個別検診は41歳、46歳、51歳、56歳でクーポン券を渡した人が対象。464人が受けた。  
〇 乳がんのクーポン券送付者の受診実績が791人となっているが、その関係は。  
〇 クーポン券を送った場合、集団検診で受診することもできる。集団検診で327人が受けて、合計で791人が受診した。

〇 検診から早期治療に結び付ける取り組みは。  
〇 がん検診で陽性となった場合は、必ず要精密検査という知らせがい



く。その後も精密検査を受けたかどうかフォローしている。